オピニオン

スポットライト

「SUN―IN未来100キロウオーク」運営

山崎信吾さん

「海辺」楽しめるコース

24時間以内に100キロを歩き通すという鳥取県内では最も長距離の過酷なウオーキング大会「SUN―IN未来100キロウオーク」が11月9日から10日にかけて開かれる。主催するNPO法人未来の理事として、コース部長としてコース設定などに当たり、大会開催に向けて奮闘を続けている。

―未来ウオークの中でも最長距離の大会。ご自身も歩かれますか？

「実はウオーキングはしない。ただ、4年前からマラソンに挑戦していて、これまでにフルマラソンに4回出かけて開かれる。主催場、完走した。初めて完走したときにはゴール直後になんだか分からないけれど、自然に涙が出て。これが達成感なんだと。走ることと歩くことは違うのだろうが、100キロを歩き通すことはまた違った達成感が生まれると思う」

「昨年の第1回大会では、最後尾の出場者にずっと車でついていった。最後尾の女性が残り2時間であと約10キロというところになり、『完歩は無理か』と思ったが、車を降りて声を掛けながら一緒に歩くと、どんどん元気が出てきて、とうとう制限時間の10分前にゴール。ようやくウオーカーの気持ちが分かった気がした」

―今回のコースは。

「速い人では午前3時ごろにゴールするということで、後半は暗い中を歩くことになる。県中部のすべての市や町を歩いてもらうこととともに、明るいうちに海辺の景色を見てもらえるコースにした。ただ、スタート後に山や峠が連続するので、ここを頑張って乗り切ってほしい」

―大会運営上気をつけていることは。

「暗い中を歩くことが多いので、道に迷うことがないように注意している。コース上には約200本ののぼりを立てて迷わないよう工夫した」

「また、多くの地域の方に協力をお願いし、ドリンクや軽食の提供をしていただく。多くの人に参加していただき、リピーターとなってもらうのに大切なのは、運営する人、地域の人の対応とおもてなしだと思う」

―どんな大会に。

「ことしでようやく2回目で、まだまだ知られていない。全国には4千人以上の参加者を集める100キロウオークの大会もある。この大会もそういう大会になってほしい。人が動けば地域も変わっていく。多くの人に参加し、手伝っていただきたい。1人で100キロを歩き通すのは難しいが、5人以上で参加するリレーもある。途中で交代してもOKとしている。ぜひ職場で、地域でチームを組んで参加してほしい」

（聞き手は中部本社・倉繁淳志）

＜プロフィル＞やまさき・しんご　倉吉東高卒業後、鳥取県職員を経て、40歳のときに倉吉市の谷口病院に転職。現在は事務長を務める。2009年からNPO法人未来理事。倉吉市上井。52歳。